

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 平1-271829

⑫ Int. Cl.

G 06 F 3/08
G 06 K 17/00

識別記号

厅内整理番号

A-6711-5B
F-6711-5B

⑬ 公開 平成1年(1989)10月30日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 物品認識システム

⑮ 特 願 昭63-100933

⑯ 出 願 昭63(1988)4月22日

⑰ 発明者 福岡 真一郎 京都府京都市右京区花園土室町10番地 立石電機株式会社
内

⑱ 出願人 立石電機株式会社 京都府京都市右京区花園土室町10番地

⑲ 代理人 弁理士 中村 茂信

明細書

1. 発明の名称

物品認識システム

2. 特許請求の範囲

(1) データを記憶するメモリを含むデータキャリアと、このデータキャリアと非接触で結合し、データの伝送を制御する下位コントローラと、この下位コントローラを介して前記データキャリアのメモリへデータを書き込みあるいはこのメモリからデータを読み出す上位コンピュータとを備てなる物品認識システムにおいて、

前記上位コンピュータは、前記データキャリアのメモリへ、ビットを指定してデータを書き込みあるいはこのメモリよりビットを指定してデータを読み出すことを特徴とする物品認識システム。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

この発明は、下位コントローラを介して、上位コンピュータとデータキャリアとの間でデータの授受を行う物品認識システムのデータ伝送に関する

。

(ロ) 従来の技術

近年開発されている物品認識システムは、上位コンピュータと下位コントローラとデータキャリアとから構成されるのが一般的である。例えば、贈送パレットや工具等の物品に、認識データを記憶するためのメモリを有するデータキャリアを付設しておき、このデータキャリアと非接触で結合する下位コントローラを介して、上位コンピュータがこのデータキャリアのメモリに、データを書き込み、又はこのメモリからデータを読み出すものである。

(ハ) 発明が解決しようとする課題

上記従来の物品認識システムにおいては、データキャリアのメモリ中のあるアドレスの1ビットのみを書き換える場合には、そのビットを含むデータをバイト単位で下位コントローラが読み出し、このデータ中の該ビットの部分を書き換えたデータを作成し、このデータを再びデータキャリアに書き込む。また、あるアドレスの1ビットを読み出

したい場合でも、下位コントローラがデータキャリアのメモリより、当該ビットを含むデータをバイト単位で読み出していた。

このようにバイト単位で、データの読み込み、読み出しが行なうことは、上位コンピュータにビット処理のプログラムが必要となり、上位コンピュータのソフト負担が大きくなる。また、データの1ビットのみを書き換える場合には、読み出されたデータ中の他のビットが誤って書き換える危険性がある。

この説明は、上記に述べたもので、上位コンピュータがデータキャリアのメモリへビット単位でアクセスできる物品認識システムの提供を目的としている。

(二) 誤認を解決するための手段及び作用

上記誤認を解決するため、この発明の物品認識システムは、データを記憶するメモリを含むデータキャリアと、このデータキャリアと非接触で結合し、データの伝送を制御する下位コントローラと、この下位コントローラを介して前記データキ

アリアのメモリへデータを読みあるいはこのメモリからデータを読み出すトランジスタコンピュータとを組んでなるものにおいて、前記上位コンピュータは、前記データキャリアのメモリへ、ビットを指定してデータを読みあるいはこのメモリよりビットを指定してデータを読み出すことを特徴とするものである。

従って、データを書き換える際、当該ビットを含むバイト単位で読み出して書き換えるのではなくから、データの他のビットを誤って書き換える危険性が少ない。また、ビット単位で処理が行えるから、上位コンピュータの負担を小さくすることができる。

(水) 実施例

この発明の一実施例を図面に基づいて以下に説明する。

この実施例は、工場ラインの管件にこの物品認識システムを適用したものであり、第4図は、データキャリア10、1Dコントローラ（下位コントローラ）30等の配置を説明する図である。ベ

3

4

ルトコンベア2上を搬送されるバレット3には、データキャリア10が付設されている。ベルトコンベア2に沿って、リード・ライト（以下R・Wという）ヘッド20が設けられ、このR・Wヘッド20は、1Dコントローラ30に接続されている。また、この1Dコントローラ30は、上位コンピュータ40に接続されている。

データキャリア10は、第3図に示すようにコイルスプール11に巻きした電磁コイルし、を設け、この電磁コイルしの一端には、整流器13と被説明書から信号線を分離して取出す復調器14とを接続し、この復調器14の次段に制御回路16を介して、メモリ17を接続し、このメモリ17内にバレット種類等のデータを記憶する。

また、上述の整流器13の整流出力を制御回路16の電源として用いる一方、この制御回路16には、搬送被説明書の変化に対応して変化させる変調器15を接続している。

さらに、上述の電磁コイルしの両端には、第1コンデンサC1と第2コンデンサC2及び接点

12の直列回路とを並列に接続している。

R・Wヘッド20は、データキャリア10に対して電磁結合され、相互説明作用によりデータの送受信を双方に行なう。

このR・Wヘッド20は、コイルスプール21に巻きした電磁コイルしの両端をLC発振器22に接続すると共に、第3コンデンサC3を並列に接続し構成している。

1Dコントローラ30は、前記LC発振器22に接続する復調器31及び変調器32を備えている。CPU33には、この復調器31、変調器32、さらにメモリ34、上位伝送回路35が接続されている。

上位コンピュータ40は、上位CPU42、伝送回路41及び上位メモリ43を備えており、上位メモリ43に記憶されるプログラムに従って、R・Wコマンドを送信する。

次に、この実施例物品認識システムの動作を第1図及び第2図を主に參照しながら以下に説明する。

5

—178—

6

まず、上位CPU42は、ビット指定情報の入ったオートリード、オートライト、或いはリード、ライトコマンドを作成する〔ステップ(以下STという)101〕。このコマンドは、従来のオートリード、オートライト或いはリード、ライトコマンドとは異なり、指定アドレスの指定ビットのみをアクセスするコマンドである。

次に、ST102では、上位CPU42は、伝送路41及び上位伝送回路35を介して、IDコントローラ30内のCPU33に送信する。

CPU30は、コマンドを受信すると(ST201)、このコマンドがオート系のコマンドか否かを判定し(ST202)、オート系の場合には、ST203へ分岐し、オート系でない場合には、ST204へ分岐する。

ST203では、データキャリア10がR・Wヘッド20に接近したか否かが判定する。すなわち、IDコントローラ30が、R・Wヘッド20より、ステータスリードコマンドを断続的に発し〔第2回(4)参照〕、データキャリア10がR・

Wヘッド20に接近すると、両者が電磁結合による相互誘導作用で電磁コイルし、に起電力が発生し、このイニシャル時に発する信号をステータスデータとして、R・Wヘッド20を介してCPU33に返信することで、データキャリア10の接近、非接近を判別する。このST203の判定がYESになるまで、ここで待機し、YESとなれば、ST204へ分岐する。

ST204では、CPU33が受信したコマンドに指定されているデータが、データキャリア10のメモリ17よりIDコントローラ30へリードされる。続くST205では、このリード処理にエラーがなかったか否か判定し、この判定がYESの場合には、ST206へ分岐し、NOの場合には、ST211へ分岐する。ST211では、CPU33はエラー結果の正常レスポンスを作成し、ST212では、CPU33がこのレスポンスを上位CPU42に送信する。

ST206では、コマンドがリードかライトかいずれであるかを判定する。リードの場合には、

7

ST207に分岐し、ライトの場合には、ST208に分岐する。

ST207では、CPU33は該出した指定ビットの1、0を判別し、正常レスポンスを作成し、ST212へ進んで、このレスポンスを上位CPU42に送信する〔第2回(4)も参照〕。

一方、ST208では、CPU33で指定ビットを書換えたライトデータを作成し、このライトデータをデータキャリア10のメモリ17に書き込み(ST209)、正常レスポンスを作成し(ST210)、これを上位CPU42に送信する〔ST103、第2回(4)も参照〕。

(ヘ) 発明の効果

以上説明したように、この発明の物品認識システムは、上位コンピュータがデータキャリアのメモリへ、ビットを指定してデータを書き込みあるいはこのメモリを指定してデータを読み出すことを特徴とするものである。従って、上位コンピュータがデータキャリアのメモリにビットごとにアクセスでき、上位コンピュータの負担が軽減できる。

8

また、データキャリアのメモリに記憶されるデータ中の1ビットを書換える場合に、誤って他のビットを書換えてしまう危険性が少ない。

4. 図面の簡単な説明

第1回は、この発明の一実施例に係る物品認識システムの上位コンピュータとIDコントローラの動作を説明するフロー図、第2回(1)及び第2回(2)は、IDコントローラとデータキャリアとの間の通信を説明する図、第3回は同物品認識システムの回路構成を説明するブロック図、第4回は、同物品認識システムの、データキャリア、R・Wヘッド、IDコントローラの配置例を示す図である。

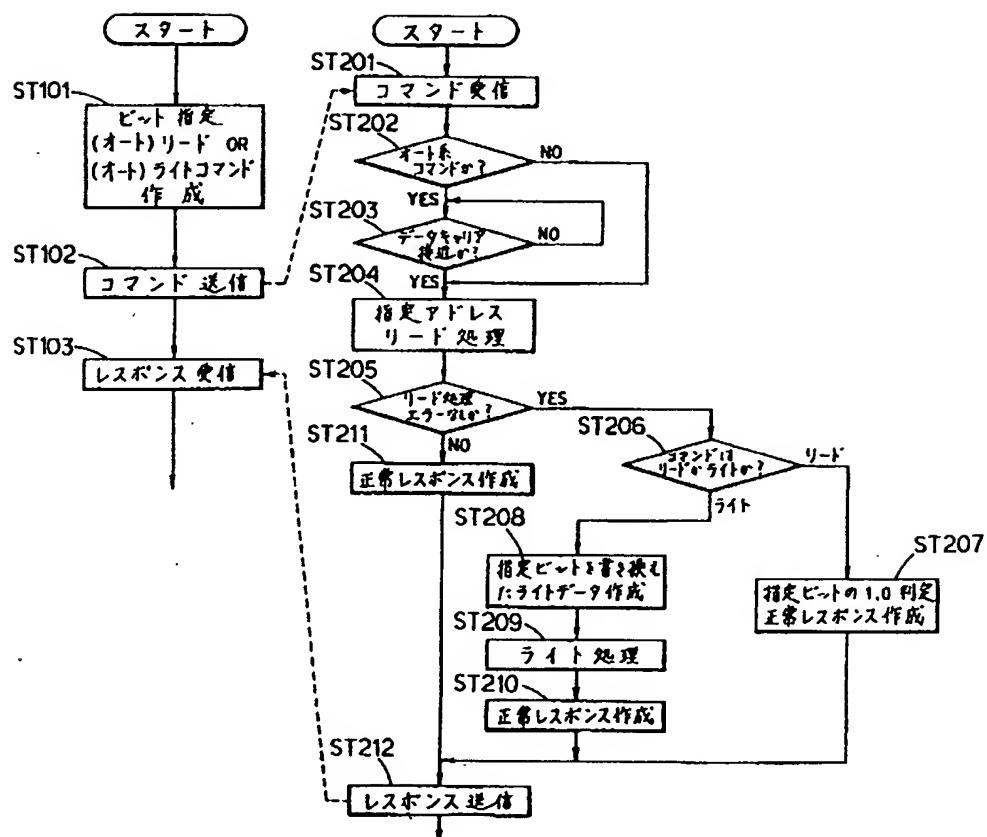
10：データキャリア、17：メモリ、
20：R・Wヘッド、30：IDコントローラ、
40：上位コンピュータ。

特許出願人 立石電機株式会社

代理人 弁理士 中村茂信

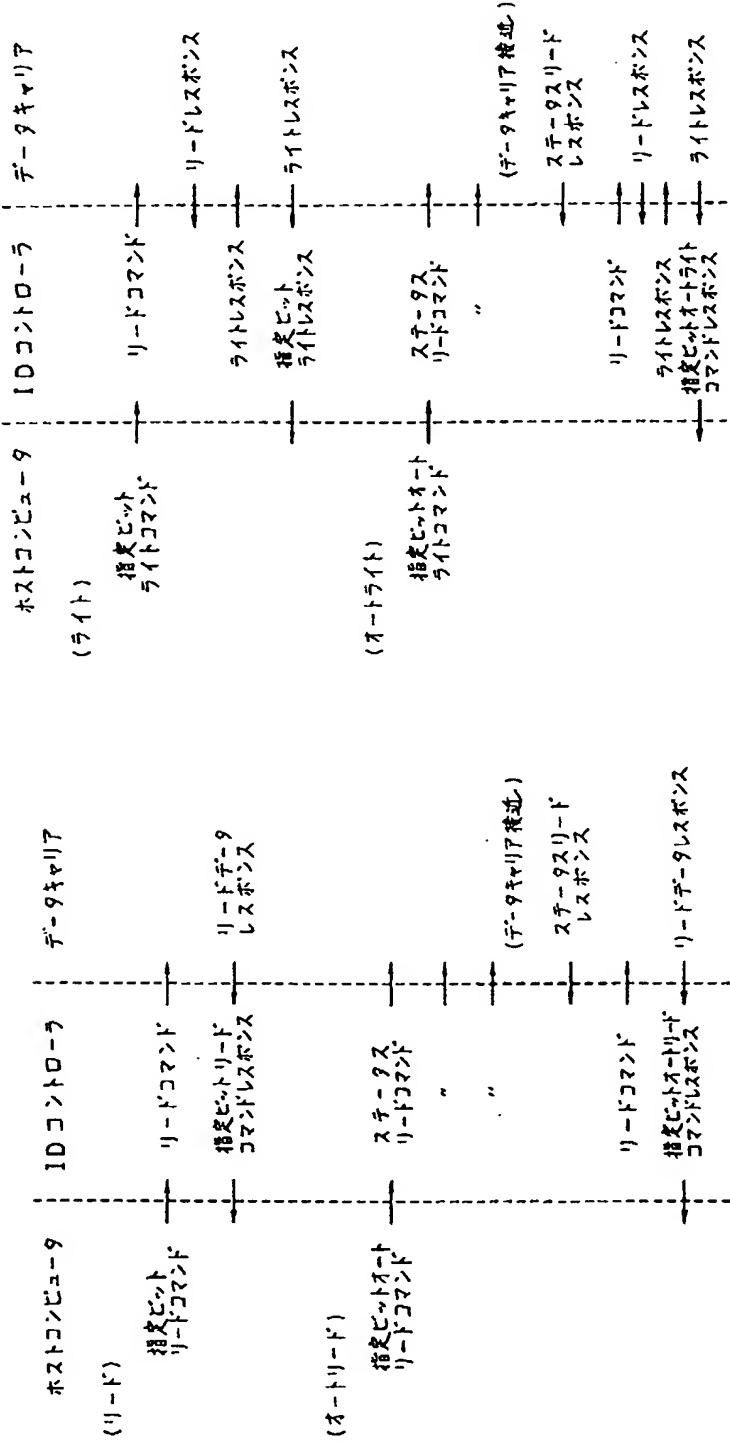
9

第 1 図

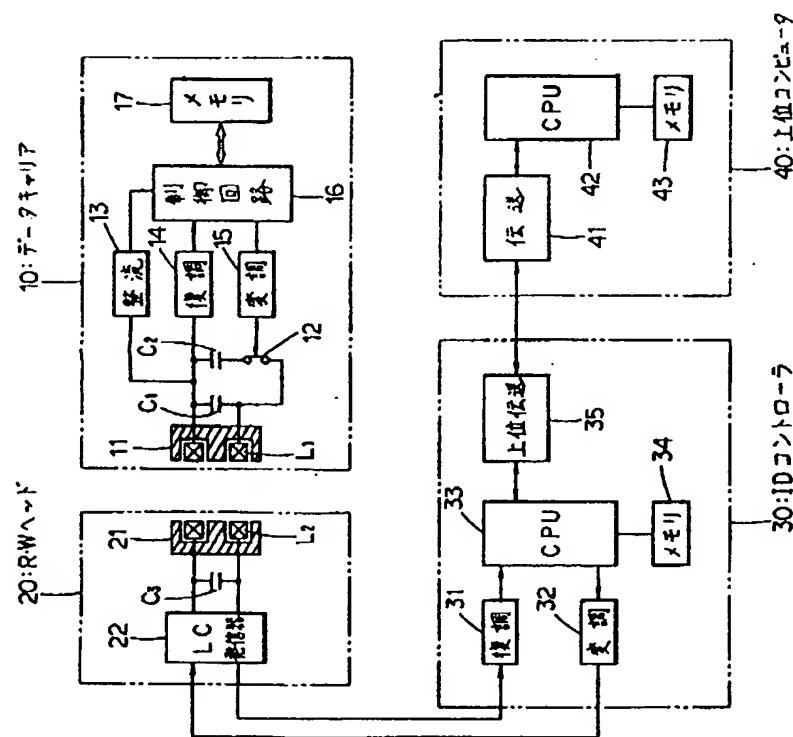


第2圖(8)

第2圖(b)



第 3 図
第 4 図



128-644

AU 175 49011

JO 2271820
NOV 1990

90-373443/50 TANAKA KIKINZOKU KOGYO 13.04.89-JP-094153 (06.11.90) A61b-05/04 Electrode for diagnosis of cardiac infarction - consisting of spherical head made of silver(alloy), copper and plated with gold C90-143470	TANI 13.04.89 JO 2271-820-A L(3-A1A, 3-H)
An electrode for the diagnosis of myocardial infarction is rivet-shaped with the head being spherical. The upper half of the head is made of Ag, an Ag alloy, or an Au alloy. The stem part is made of Cu or a Cu alloy. The entire surface is plated with Au. A lead wire is connected to the stem part. USE/ADVANTAGE - The rivet form facilitates the working. The part to come in contact with the body has good contact characteristics. The spherical head ensures stable contact with any complicated geometry. It is easily fitted to a net by engaging the stem part in a silicone ring and fixing the ring to the net. In an example, the head is typically 3mm in dia., 1mm in height, and 10mm in arc. The stem part is typically 1mm in dia. and 1.6mm in length. The Au plating is usually 0.5 microns thick. The stem has, e.g., a bottomed hole of a 0.8mm dia. and a 1.0mm depth for insertion of the lead wire. A typical silicone ring has an outside dia. of 3mm, an inside dia. of 0.8mm, and a thickness of 1.6mm. (App Dwg.No.0/6)	

© 1990 DERWENT PUBLICATIONS LTD.
128, Theobalds Road, London WC1X 8RP, England
US Office: Derwent Inc., 1313 Dolley Madison Boulevard,
Suite 303, McLean, VA22101, USA
Unauthorised copying of this abstract not permitted.

BEST AVAILABLE COPY